



FRIENDS OF TODAI, INC.

2012 年度報告書

目次

小林久志理事長ご挨拶	1
小林秀太氏を総務担当に選出	
桑間雄一郎氏を財務担当理事に選出	
TYI 会議、過去 40 年の日中関係を論ずる	2
数物連携宇宙研究機構 (IPMU)、カブリ研究所となる	3
コロンビア大学・東大の凝縮物体物理共同教育プログラムへグラント	4
2012 年度サマー・スカラシップとインターンシップ・プログラムのご報告	5
10 人の東大生、8 人の米国大学生に FOTI リーダーシップ奨学金	6
2011-2012 会計年度の募金結果と会計報告	8
2011-2012 会計年度財務諸表の要約	10
2011-2012 会計年度寄附者芳名録	11

小林久志理事長ご挨拶



2009年から開始しました Friends of Todai の活動もこの秋から4年目のサイクルに入りました。2012年のサマー・スカラシップ・プログラムは本郷の国際交流課が窓口となるイエール大学やカリフォルニア大学でのGSP (Global Summer Program) や英語研修コース (ELI) とは別に、米国内での他の優れたサマー・プログラムを自発的に見つけ FOTI スカラシップに応募した東大生の中から特に優秀な3人を選考し、また東大理学部でのサマー・インターンシップ・プログラム (UTRIP) に応募した30校余りの米国大学からの学生40人以上の中から最も優秀な学生3人を派遣するなど、FOTI のプログラムも多様化、充実化して参りました。

研究 Grant ・プログラムの面では過去二年支援させて頂いた東大・イエール・イニシアティブ (日本学に関する研究) と東大・UCバークレーの宇宙物理数学研究機構 (IPMU) に加えて、凝縮物質物理に関する東大・コロロニア大学の共同カリキュラムに参加する大学院学生を支援することになりました。これらのスカラシップと Grant ・プログラムの為の資金は、米国シンテック社の信託基金からの配当金と同窓生皆様からのご寄付であります。

海外での勉学や研究を通して国際感覚を体得し、他国の文化を体験したこれら日米の学生達はグローバル・リーダーとして将来の両国の将来を担って行く人材に成長していく事を、私たちは確信しております。2013年度は、更に多くの学生達、若手の研究者達に貴重な留学を経験して貰いたいと念じておりますので、今後も皆様の寛大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Friends of Todai の今後の活動の内容や資金面での拡充に関して、皆様からのアイデア或いはご助言も賜りたいと念じております。president@friendsoftodai.org 宛にご意見をお寄せ頂ければ幸甚であります。

理事長 小林久志

2012年12月吉日

FOTI 理事会、小林秀太氏を総務担当に選出



4月10日のFOTI理事会において、小林秀太氏が新任の総務担当に選出され、4月15日付けで、昨年5月より臨時の総務担当であった渡邊泰秀氏の後を継いだ。

小林氏は平成13年東大法学部(公法コース)を卒業、平成16年に同学部、政治学研究科修士課程卒業、さらに平成18年にHarvard Law Schoolより法学修士(LL.M.)を取得。ボストンのShen-Shin Lu法律事務所にて約一年間インターンシップの後、2007年に

(次のページへ続く)

桑間雄一郎氏を財務担当理事に選出



2012年11月7日にFOTI理事会はFOTI諮問委員会のメンバーである桑間雄一郎氏を財務担当理事に選出し、2012年11月16日付けで任命しました。桑間氏は伊藤澄子氏の後任として、理事としての一般責務に加えてFOTIの財務関係を担当します。

桑間氏は1987年に東大医学部を卒業後、東大病院外科に勤務。1991年に日本外科学会から外科医としての認定を受けました。その後渡米し、米国医師国家試

(次のページへ続く)

(続：小林秀太氏を総務担当に任命)

Pricewaterhouse Coopers LLP のニューヨーク事務所に入り現在シニア・アソシエート。専門は米国および日本の多国籍企業の国際税務プランニング。

小林氏はニューヨーク州弁護士(2007年に資格取得)であり、税と社会保障政策や租税回避(タックス・シェルター)など日本と米国の税法に関する論文を数件発表している。

FOTIの総務担当を引き受けたことに関し、小林氏は「FOTIでの活動を通じ海外から母校に貢献する機会を頂き、大変光栄です。」と述べる。小林久志理事長は、「小林秀太さんのように、若くて優秀な卒業生がFOTIの総務担当として加わって下さり、私ども理事会は大変喜んでます。また、渡邊氏が一年間FOTIのために尽くされたこと、そして小林秀太さんを後継者として推薦して下さったことに感謝致します」と述べた。

(FOTI ニュース・レター第五号より)

(続：桑間雄一郎氏を財務担当理事に選出)

試験に合格したあと、1993年にはニューヨークのベス・イスラエル・メディカルセンターで内科医として研修を受け、1996年に American Board of Internal Medicine (ABIM) から内科医として認定されました。1997年に日本に帰国し母校東大医学部の講師となり、日本医師会総合研究所(JMARI)での研究にも従事しました。2000年にベス・イスラエル・メディカルセンターに招かれ再渡米し、現在に至っています。

現在桑間氏はアルバート・アインシュタイン医科大学の准教授として精力的に医学教育活動に従事しています。さらに、ベス・イスラエル・メディカルセンターの日本医療部門のメディカルディレクターとしてNY地域の日本人、日系人社会の医療にも広く貢献しています。2006年にはアルバート・アインシュタイン医科大学の教育に多大な貢献があった教授達によって構成されるレオM.ダビドフ学会のメンバーに選出されました。

東大-イエール・イニシアティブ「過去40年の日中関係：1972年以來の協力と競争」を論ずる

2012年3月30日(金)にイエール大学において Today-Yale Initiative (TYI) レクチャー・シリーズの一環として「日中の過去40年：1972年以來の協力と競争 (Japan and China for Four Decades: Cooperation and Competition since 1972)」と題するシンポジウムが開催されました。この企画は日中国交正常化40周年にあたって前TYI主担当の松田康博教授を中心に行われ、Friends of Today もグラント授与により援助をしています。



第一セッション開始前のご挨拶する
イエール大学の Daniel Botsman 教授

講師は東京大学の川島真准教授(総合文化研究科)、松田康博教授(東洋文化研究所)、高原明生教授(法学政治学研究科)等(発表順)が勤め、Peter Perdue 教授(イエール大学歴史学科)、Frances Rosenbluth 教授(同政治学科)、Patrick Cohrs 准教授(同歴史学科)がコメンテーターの役割を演じ、イエール大学の研究者、学生などが参加しました。Daniel Botsman 教授(イエール大学歴史学科)がシンポジウムの委員長をつとめました。

レクチャーは三つのセッションに分かれ、第一のセッションでは川島教授が「日中関係における歴史的対話と論争(Historical Dialogue & Disputes in Japan-China Relations)」と題し、日中間において歴史認識

(次のページへ続く)

の異同から生じた政治的諸問題、またそれらの解決に向けての試みについて、特に教科書問題及び川島氏自身も参加した「日中共同歴史研究に焦点を絞った報告を行いました。

第二セッションでは松田教授が「日中の安全保障関係：関心事、競争および意志の疎通 (Sino-Japanese Security Relations: Concerns, Competition and Communication)」が報告されました。松田教授は東アジアにおける安全保障の枠組み全体の特徴を論じた上で、その中に日中間の安全保障関連の諸問題を位置づけ、両当事国が夫々各々如何なる意図を持ち、如何にして相互に働きかけを行ってきたか、1970年代から現在に至るまでの過程を跡づけました。

第三セッションにおいては高原教授が「過去 40 年の日中関係を回想する：それは将来について我々に何を示唆するか? (Reflecting on the Past Forty Years of Japan-China Relations: What Does it Tell Us about the Future?)」と題し、日中国交正常化以後の 40 年間を 10 年ごとの四期に分け、それぞれの期間における両国の相互に対する認識・国民感情、経済的諸条件、各々における国内政治、更には両国をとりまく国際的環境等の在り方、といった諸要因を分析し、これらが如何に変動してきたかを跡づけました。

各セッションでは、イェール大学在籍の中国人留学生達をも含めて参加者の間で活発な議論が行われました。松田康博教授は、当会議の持つ意義を次のように語っています：「イェール大学の中国専門家や国際政治専門家との間で、日中関係に関する高度な知的交流の場を持つことができた。国際社会において、中国や日本への関心が高まっているものの、必ずしも正確な知識に基づく議論が為されているとは言い難い現状がある。今回のレクチャーにより、そうした現状に一石を投じ、日本の専門家の見解を忘れるべきではないとの認識を米国の専門家に持ってもらえるきっかけとなったものと思う。」

詳細は以下の URL を参照：

http://todai-yale.jp/activities/news-events/2012japan_and_china_for_four_decades_cooperation_and_competition_since_191972_1_jp.html

数物連携宇宙研究機構 (IPMU)、カブリ研究所となる



Kavli Institute for Physics and Mathematics of the Universe
(Courtesy: University of Tokyo)

数物連携宇宙研究機構 (IPMU) に対し、米国のカブリ財団は 750 万ドル (約 5.7 億円) の基金を設立し、基金からの配当により恒久的に機構の研究を支援することに東京大学とカブリ財団が合意し、IPMU の名称を 4 月 1 日付けで「カブリ数物連携宇宙研究機構 (Kavli IPMU)」に変更した。

IPMU は、日本政府の世界トップレベル研究拠点プログラム (World Premier International Research Center Initiative) の一つに採択され 2007 年 10 月に発足した。同機構では現代基礎科学の最重要課題である暗黒エネルギー、暗黒物質、統一理論 (超弦理論や量子重力) などの研究を数学、物理学、天文学における世界トップクラ

(次のページへ続く)

スの研究者の連携によって推進している。

カブリ財団は、ハーバード、MIT、ケンブリッジ等世界の有力大学の研究機関において宇宙物理、ナノサイエンス、脳科学、理論物理学の4分野を支援して、「カブリ」の冠をつけたカブリ研究所に基金を拠出、世界トップレベルの研究を支えている。IPMUは世界で16番目のカブリ研究所となった。

「世界的に著名な Kavli 財団から寄付を頂き、また、世界の名だたる研究所の一つに IPMU が加わることが出来たことは、大変名誉なことです。Kavli 氏の国境を越えた寛大な支援が、IPMU に安定的な研究基金を約束し、その恩恵は今後の研究成果の大きな支えとなると思われまます。また、今回の支援は東京大学自体が目指すシステム改革にも大きな影響を与えました。今後もこの機会を更に大きな発展へとつなげられるように取り組んで生きたいと考えています」と浜田純一東京大学総長は2月8日の記者会見で語った。

FOTI は2010年、2011年に引き続き、今年度も Kavli IPMU のバークレー・サタライト (Berkeley Satellite) に研究助成金 (Research Grant) を授与しています。Kavli IPMU の東大グループとカリフォルニア大学バークレーのグループの間で大学院生やポストドク・フェローの若い研究者が相手の大学を短期間訪問し共同研究を行っていますが、FOTI からのグラントは彼らの旅費や滞在費に使われます。

コロンビア大学ー東大固体物理学合同講義へグラント授与

FOTI は \$ 13,750 のグラントを固体物理学に関するコロンビア大学ー東大合同講義プログラムに授与しました。

コロンビア大学物理学部は大学院生を対象とする「凝縮体物理 (Condensed matter physics) のフロンティア」という固体物理学のカリキュラムを2011年より東大の物理学科・応用物理学科と合同で開発してきました。この講座では東大、コロンビア、その他の大学の教授陣や研究者が最先端の研究について講義をしましたが、内容は大学院初年度のレベルに合わせてあります。すべての授業はパワー・ポイント・スライドと音声同期させたビデオ・ファイルとして記録されています。



2011年秋にはコロンビア大学物理学科の植村泰朋 (Uemura, Yasutomo) 教授 (写真左) のリーダーシップのもとで上記のコースが企画されコロンビア大学固体物理学の教授陣、およびプリンストン大学、ニューヨーク大学からの講師等により講義が24回程にわたりコロンビア大学で行われました。さらに講義は東大での冬学期特別講座の教室でビデオ放映され、20人程の東大生がこの講座に参加しました。2012年3月にはこれらの学生のうち7人が1週間コロンビア大学を訪問して同大学の教授陣、大学院学生達と交流する機会を持ちました。

一方2012年夏学期にはコロンビア大学に対応するコースが東大で開講され、東大教授陣 (物理学科 青木、内田、小形、高木、藤森、宮下、応用物理 今田、岩佐、鹿野田、樽茶、十倉、永長) が講義をしました。東大での講義は全部ビデオに撮られており、2012年秋学期 コロンビア大学物理学科のコース G6021 で放映されています。20人程のコロンビア大学院生がこのコースに参加しています。

(次のページへ続く)



植村教授はこのコースに参加したコロンビア大学生 10 人程を対象とする日本への研修旅行を 2013 年 3 月ごろに計画していますが、FOTI のグラントはこの研修旅行費用の一部のサポートに使われます。研修旅行のスケジュールには東大講師陣、大学院生との交流、京都大学への訪問、SPring-8 シンクロトロン(兵庫県にある大型放射光施設)の見学等が計画されています。

FOTI の山田雅章大学担当理事は、「FOTI がこの優れた交換プログラムに貢献できるのを、大変嬉しく思っています。今年は、コロンビア大の優秀な学生達が日本を訪れ、学問の上だけでなく、広く有意義な文化交流を通じて、将来の研究活動に役立つ体験をされるよう祈っています」と述べた。

2012 年度サマー・スカラシップとインターンシップ・プログラムのご報告

2012 年度 FOTI インターナショナル・リーダーシップ奨学金受賞者の名簿と報告書が FOTI ウェブサイトのニュース・セクションとブログに掲載されました。その一部をここにご報告いたします。

FOTI ニュースレター No.5 および No.6 に報告されましたように、10 人の東大生が 2012 年度夏季の FOTI インターナショナル・リーダーシップ奨学金(FOTI-International Leadership Award 略称 FOTI-ILA)を受賞しました。留学先による内訳は、カリフォルニア大学バークレー校(UCB)での GSP(グローバル・サマー・プログラム)参加者 2 人、イェール大学での GSP 参加者 2 人、イェール大学の ELI(英語研修講座)参加者 2 人、同大学サマースクール(YSS)参加者 1 人。GSP、ELI、YSS への参加は国際交流課が窓口になりますが、これらとは別に東大生が自分で見つけた米国でのサマー・プログラムに応募した学生の中から 3 人に FOTI 奨学金が与えられました。



奨学金の額は \$ 3,000 - \$ 4,200 で、プログラム必要経費と学生のニーズにより差があります。東大学生の中には FOTI 奨学金の他に、日本学生支援機構(JASSO)の奨学金や、留学先のイェール大学または UCB から授業料の一部または全額を免除された例もあります。

一方米国大学学生の FOTI-ILA 受賞者は今年は合計 8 人でした。内訳は、東大 GSP 参加者 2 名、理学部のインターンシップ・プログラム(UTRIP)参加者 3 人、MISTI(MIT International Science and Technology Initiative)の紹介で東大の研究室でインターンシップをした MIT 学生 3 人となります。

「優秀な東大生および米国大学の学生が多数 FOTI の 2012 年度サマー・スカラシップ・プログラムに応募してくれたことを大変嬉しく思っています。UTRIP プログラムに関しては、40 人以上からの応募があり、その大多数が優秀な学生でした。FOTI の審査委員会にとり、多数の優秀な応募者の中からわずか 3 人の受賞者を選ぶとい

(次のページへ続く)

うとは大変難しいことでした」とFOTI 大学関係理事の山田雅章博士(プリンストン・プラズマ物理研究所、名誉研究員)は語ります。

小林久志 FOTI 理事長は「この夏を米国で過ごした東大生の多くが米国の大学院留学やポスト・ドク研究員への道を真剣に考え始めているようです。一方、米国大学の学生は東大で素晴らしい経験を積み、東大とそのプログラム、および日本の文化・社会について非常に良好な印象をうけたと全員報告しています。FOTI のプログラムに携わった東大および米国大学の教授陣およびプログラム担当者には深くお礼を申し上げます。また、FOTI に多額の寄付を下されたシンテック社と米国および日本の東大卒業生に深く感謝致します。この夏の経験により世界観、将来のキャリアの計画が大きく変わったという受賞者のレポートを読み FOTI の活動に関わった甲斐があったと強く感じます。寄付をされた方々が共感して下さることを望みます」と語ります。

10 人の東大生、8 人の米国大学生に FOTI リーダーシップ奨学金

東大奨学生(10 人)の名前、所属、学年、留学先、コース名は以下の通りです：

UCB 及びイエール大学での GSP 参加者



福井 思佳

・(工学部、システム創成学科、4 年)：カリフォルニア大学バークレー校(UCB)での GSP コース，“Islam 2.0: Media & Re-shaping of Muslim Identity in the 21st Century”

・7 月 2 日 - 8 月 10 日
・motokafukui@gmail.com



山下 紗里

・(農学部環境資源科学科、4 年)：イエール大学での GSP コース，“Topics in International Economics”

・7 月 2 日 - 8 月 10 日
・sari3387@gmail.com



市野 凜

・(法学部第 3 類政治コース、3 年)：UCB での GSP コース，“Summer Peace Institute”

・6 月 4 日 - 7 月 13 日
・rin.ichino@gmail.com



阪本 絢子

・(農学部環境資源科学科、4 年)：イエール大学での GSP コース “Sustainability and Institutions”

・7 月 12 日 - 7 月 27 日
・ayako_makeithappen@yahoo.co.jp

イエール大学の ELI/YSS 参加者



辻 真人

・(理学部生物学科、3 年)：イエール大学での YSS，“How the Brain Works,”and “Digital Information Age”

・7 月 2 日 - 8 月 12 日
・mtsuji172@gmail.com



浅沼 友里

・(法学部第 3 類、3 年)：イエール大学での ELI，“6-week Intensive Language Course”

・7 月 2 日 - 8 月 10 日
・assai.april27@gmail.com

(次のページへ続く)

(続：イェール大学の ELI/YSS 参加者)



山田彬亮

・(総合文化研究科言語情報科学専攻、4年): イェール大学での ELI, “English for Postgraduate Study”
・7月2日 - 8月12日

・ autumn.hawk.in.mountain.fields@gmail.com

その他のサマースクール参加者



Ms. Beibei Zhang

・(新領域創成科学研究科サステイナビリティ学科、修士1年): UCB での Summer Institute, “Environmental Design”
・7月2日 - 8月10日

・ zhangbeibei@sustainability.k.u-tokyo.ac.jp



渡邊謙吾

・(薬学系研究科博士課程、3年): Cold Spring Harbor Laboratory (CSHL) サマースクールで “Computational Cell Biology”
・7月24日 - 8月13日
・ ken5wtbn@gmail.com



菊池建人

・(工学部航空宇宙工学科、4年): UCB での “English as a Second language”
・7月23日 - 8月10日
・ kkent.527@gmail.com

米国大学奨学生(8人)の名前、大学、専門、学年、東大での所属研究室、あるいは GSP のコース名を下記に示します:

UTRIP (University of Tokyo Research Internship Program) 参加者



Mr. Emre Discekici

・(イリノイ大学、化学及び東洋言語と文化、4年): 東大理学系研究科化学専攻 橘和夫教授研究室

・ 6月18日 - 7月27日

・ disceki1@gmail.com



Ms. Olivia Waring

(プリンストン大学、化学、4年): 東大理学系研究科化学専攻 小澤岳昌教授研究室

7月2日 - 8月10日

・ olivia.waring@worc.ox.ac.uk

・ <http://myhovercraftisfullof.unagi.wordpress.com/>



Ms. Gulnara Fayzulina

・(南アラバマ大学、物理及び数学、3年): 東大理学系研究科生物化学専攻 黒田真也教授研究室

・ 7月2日 - 8月10日

・ gfayzulina@gmail.com

MISTI (MIT International Science & Technology Initiatives) 参加者



Ms. Jocelyn Fuentes
 ・(MIT、地球惑星科学科、3年):
 東大理学系地殻化学実験施設
 鍵裕之教授研究室
 ・10月1日 - 2013年4月1日

・fuentesj@mit.edu



Mr. Justin Holmgren
 ・(MIT、コンピュータ・サイエンス及び数学科、3年): 東大理学部情報科学科 蓮尾一郎教授研究室
 ・6月4日 - 8月24日

・holmgren@mit.edu



Mr. Jacob Albritton
 ・(MIT、生物学科、4年): 東大新領域創成科学科メデイカル・ゲノム専攻 小林一三教授研究室
 ・7月10日 - 8月31日
 ・jalbrit@mit.edu

東大での GSP 参加者



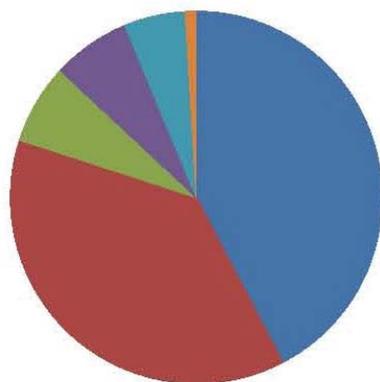
Ms. Wenyu Zhang
 ・(UCB 応用数学及び統計学、2年):
 “Nanoscience”
 ・7月12日 - 7月26日
 ・wenyu.zwy@gmail.com
 ・http://wy-todai2012.blogspot.sg



Ms. Tiffany Lee
 ・(UCB、法学部、大学院2年):
 “Japan in Today’s World”
 ・7月12日 - 7月27日
 ・tlee85@berkeley.edu

2012 会計年度の募金結果と会計報告

10月14日に行われた理事会で小林理事長は2011-2012会計年度(2011年7月1日から2012年6月30日迄)の財務諸表の報告をした。



- Board & AC members (12)
- Alumni in Japan (22)
- NY Ichokai Members (25)
- Alumni in IL (8)
- Alumni in CA & WA (7)
- Alumni in TX & MO (3)

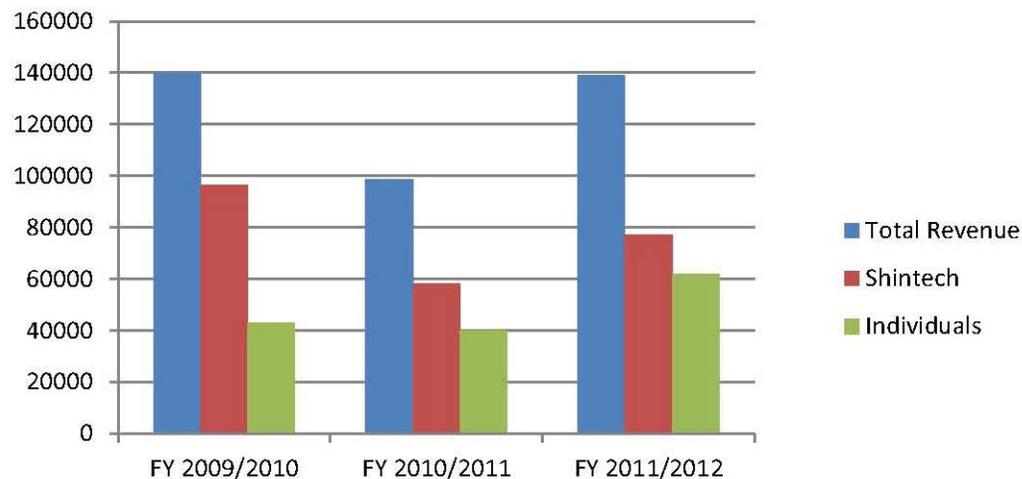
会計年度 2011-2012年、個人からの寄付額のグループ、地域別の割合

2011-2012 会計年度の募金活動は、前年度を40%上回る好成績で終了しました。寄付金総額は139,155ドルで、その内訳はシンテック社信託基金からの配当金が77,150ドル、77人の個人からの寄付が、企業からのマッチング・ギフトを含めて62,005ドルであった。「個人の皆様からのご寄付が前年度の45人による43,200ドルから、77人による62,005ドルへと大幅に伸びました。日

(次のページへ続く)

本国内の卒業生の中から、22人の有志の方々が、合計23,350ドルのご寄付をして下さったことがこの伸びの主な要因であります。次に、シンテック社の信託基金からの配当金が2010-2011年度は58,461ドルでしたが、2011-2012年度は77,155ドルまで回復しました。しかし、2009-2010年度の96,432ドルには及びませんでした」と小林理事長は述べた。

2011-2012会計年度の支出は合計101,259ドルであり、その内訳は(1)研究助成金が23,750ドル(カリフォルニア大学バークレー校へ1万ドル、コロンビア大学へ13,750ドル)、(2)夏季講習奨学金62,200ドル(カリフォルニア大学バークレー校へ19,200ドル、イエール大学へ18,000ドル、MITへ9,000ドル、UTRIP参加の米国大学学生3人に計12,000ドル、Cold Spring Harbor Laboratoryへ4,000ドル)。米国での夏季講習に出席した東大生への奨学金は受け入れ先の大学、研究所を通して支給された。(3)業務費用が14,968ドル(ウェブサイト、ニューズレター作成・維持に6,704ドル、事務用具2,471ドル、会議室賃貸料1,448ドル、NY銀杏会年会出席者への記念品が1,258ドル、切手代、郵送費1,180ドル、銀行手数料、PayPalコミッション856ドル、UPSメール・ボックス使用料849ドル、AIEA年会費100ドル、NY州税金申告出願料60ドル、東大生二人の昼食接待費40ドル)であった。



会計年度2009-2010年(左)、2010-2011年、と2011-2012年(右)寄付の比較表

FOTIの20110-2012会計年度末時点での資産は148,321ドルである。内訳はCitibankの当座預金、普通預金口座に146,966ドル、パソコンの時価(未償却分)が1,355ドル。負債はゼロ。2011-2012会計年度財務諸表の要約を次頁に示します。

2011-2012会計年度財務諸表の要約

貸借対照表 (単位:USドル)

<u>固定資産</u>	1,355	<u>固定負債</u>	0
パソコン (未償却分)	1,355		
<u>流動資産</u>	146,966	<u>流動負債</u>	0
当座預金、普通預金	146,966		
		負債合計	0
		資本合計	148,321
資産合計	148,321	負債・資本合計	148,321

損益計算書 (単位:USドル)

<u>経常費用</u>	101,259	<u>経常収益</u>	139,155
グラント(研究助成金, 奨学金)	85,950	寄付金	139,155
業務費用	15,309		
		その他収益	203
		受取利息	203
経常利益	38,099		
2011-2012 会計年度末資産合計	148,321		

2011-2012会計年度寄附者芳名録

ここにご寄付を頂いた方々のご芳名を記載させていただきます。敬称は省略させていただきます。なお、匿名や金額の不掲載などのご希望がありました方々につきましては、ご意向に沿う形で掲載をさせていただいております。

[法人]

Benefactor [\$25,000 以上]

Shintech Inc.* \$77,150
*5 百万ドルの信託基金からの
今年度配当分

[個人]

Sponsor [\$10,000 - \$24,999]

小林久志 \$10,000

Donor [\$1,000 - \$9,999]

市原博司 \$3,000
榊田淳二 \$3,000
大久保貞義 \$2,000
小野誠英 \$2,000
桜井本篤、信子 \$2,000
杉山健一 \$2,000
桑間雄一郎 \$1,500
浅見 徹 \$1,000
青木昭明 \$1,000
江崎 浩 \$1,000
大迫政子 \$1,000
岡本康夫 \$1,000
河原春郎 \$1,000
小林昭七 \$1,000
楠原千秋 \$1,000
高木英明 \$1,000
匿名 \$1,000
匿名 \$1,000
益田隆司 \$1,000
室賀三郎、洋子 \$1,000
山田雅章 \$1,000
若生信也 \$1,000
渡邊泰秀 \$1,000

Supporting Member [\$500 - \$999]

Ko-Yung Tung \$500
匿名 \$500
吉田洋一 \$500

\$250 - \$499 のご寄付

佐藤奈穂子 \$300
匿名 \$300
匿名 \$250
洪 政国 \$250

\$250 未満のご寄付

東大留学生
アラムナイグループ \$140
川島義之 \$100
浜田穰太郎 \$100
林啓一郎 \$100
平本嘉男 \$100*
白 成基 \$100
坂本晃一 \$100
さつき会アメリカ \$100
匿名 \$100

*: 昨年度の寄付への
マッチング・ギフト

名前のみの方々

伊喜利佳業
伊藤澄子
井上真杉
今井秀樹
亀田寿夫
鴨崎 晃
小宮山 宏
今野 浩
佐久間貴之
佐々木 元
シカゴ赤門会有志
武神淳之
塚本一宏
遠山一郎
Nhut Nguyen
藤松忠夫
松下重恵
三浦宏一
村野和雄
安井南平
米山 剛
Hoe Ling

小計 \$16,480

総計 1 法人、77 人、\$139,155